

PBCMS (Project Budget and Cost Management System)

PBCMS 開発原価管理システムは複数の受託および自社製品のシステム開発をプロジェクト単位で実施している企業および組織体への、開発原価管理を支援するシステムです。

システム開発を実施している多くの企業では、複数の開発、保守、導入、調査、研究など多くの作業が同時に複数の社員および外部協力企業のメンバーによって進行しています。それぞれのプロジェクトや作業は予算と実績との対比で評価が行われます。それに加え成果の達成率(進捗)を加味して最終の費用や期日を予測し、プロジェクトの要員割り当てや予算の変更にすばやく対処する必要があります。

PBCMSは予算／実績／達成率の管理とそれに基づくプロジェクトの評価を支援するシステムサービスです。

PBCMSでは予算の立案から実績評価の資料作成まで管理部門、組織長、プロジェクト・マネージャーおよび担当者の作業を一貫して支援することを目的として作成されています。

PBCMSで提供する機能

プロジェクトの登録と
実行予算の作成

営業部門等の要請で管理部門がプロジェクトの起票を行う。プロジェクト登録はプロジェクトコードの自動採番が出来る。登録プロジェクトの実行予算を計画、実行予算書を作成することができます。

要員割り当て

実行予算が承認されたなら、プロジェクト・マネージャーは要員の割り当てを行います。要員割当は予算と現有の要員とランクを見ながら月単位に工数相当を充当する形式で行います。

実績入力と照査

担当者は週単位で各作業に費やした作業量を報告入力します。PMは入力された実績をチェックし、作業進捗と合わせてプロジェクトの予算管理を行うことができます。

月次管理帳票出力

管理部門はPMが承認した担当者の実績入力と交通費などの経費項目を追加入力し月次のプロジェクト別実行予算管理表を出力します。これらの資料は経営会議などの評価資料として使用できます。

年度繰越処理

年度をまたがるプロジェクトは年度決算が終了後年次繰越処理が可能です。

設定機能

原価計算上必要な社員ランクやその単価の設定を行えます。また、プロジェクト管理上必要な社員、外注要員の登録などを行います。これらの設定には、随時実施するものと年度ごとに見直すものがあります。

システム利用者と役割

PBCMSの利用者には「開発原価を管理する管理部門」、「組織長」、「プロジェクトを管理するプロジェクト・マネージャー(PM)」および、実際に作業を実施する「担当者」を想定されています。

➤ 管理部門

全社もしくは部門の予算管理部署で、プロジェクトの原価管理を行い全体のレビューボードにプロジェクトの状況を報告する。

➤ 組織長

組織長で複数のプロジェクトを統括していて、配下のPMと担当者および外注要員の作業配分に責任を持つ

➤ PM (プロジェクト・マネージャー)

プロジェクトの責任者で、予算と要員配置および担当者の実績と進捗を管理する。

➤ 担当者

1つまたは複数のプロジェクトに参加し、PMに実績を報告する。

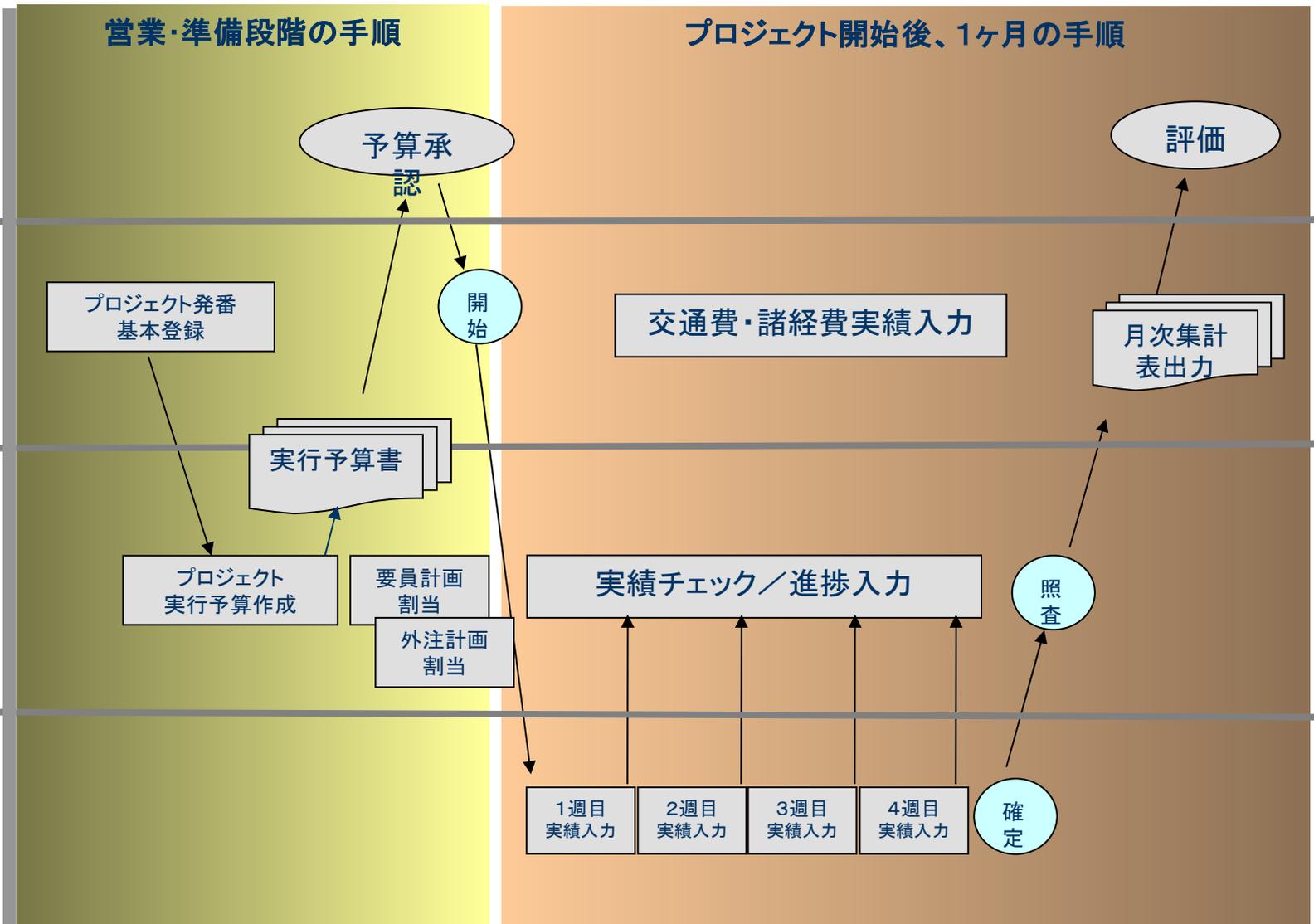


システム利用手順

営業・準備段階の手順

プロジェクト開始後、1ヶ月の手順

評価ボード
 管理部門
 組織長
 PM
 担当者



進捗管理

- 進捗管理をEVM(Earned Value Management)で評価します。
- 2週間単位で進捗を入力し、その時点での成果量を予算設定時の予想成果と比較し、進捗状況を報告します。
- 最終予測コストと納期を報告します。
- 進捗効率をコスト面とスケジュール面で評価し、問題があれば警告を行います。
- 進捗の成果係数はWBSを基本としますが、どのような係数でも管理可能です。
- PMが把握した進捗成果を入力し、管理部門がレビューボードで利用することができます。



EVM 進捗管理の意味

